

# 刑法各論 I

科目ナンバリング CRL-201  
選択 2単位

久保田 隆

## 1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、殺人罪や窃盗罪、放火罪といった個別の犯罪類型の成立要件や、それらの犯罪の相互関係について学びます。春期の「刑法各論 I」では、主に、個人的法益に対する罪(財産犯を除く)、および、国家的法益に対する罪を扱います。

## 2. 授業の到達目標

- ①刑法各論の全体像を把握し、各犯罪類型を正確に位置づけることができる。
- ②各犯罪の成立要件と典型事例を学び、問題となる行為が何罪にあたるのかを理由とともに説明できる。
- ③各犯罪の区別に関する判例・学説を学び、限界事例を適切に処理できる。
- ④①～③を踏まえたうえで、特に時事問題の検討を通じて、社会を見る眼を養う。

## 3. 成績評価の方法および基準

【対面での試験を実施できる場合】学期末試験(100%)によって評価します(講義内容に関する質問・コメントなどを募集し、その内容に応じて加点することがあります)。

【対面での試験を実施できない場合】学期末レポート(100%)によって評価します(加点については同上)。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

井田良＝佐藤拓磨 『刑法各論[第3版][新・論点講義シリーズ2]』 弘文堂  
十河太朗＝豊田兼彦＝松尾誠紀＝森永真綱 『刑法各論判例50!』 有斐閣

参考文献

井田良 『入門刑法学・各論[第2版]』 有斐閣  
井田良 『講義刑法学・各論[第2版]』 有斐閣  
西田典之＝橋爪隆(補訂) 『刑法各論[第7版]』 弘文堂  
佐伯仁志＝橋爪隆(編) 『判例判例百選Ⅱ各論[第8版]』 有斐閣  
成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎(編) 『判例ブラクティス刑法Ⅱ各論』 信山社

## 5. 準備学修の内容

毎回、講義の最後に翌週の講義内容を予告しますので、上記「教科書」(『刑法各論[第3版][新・論点講義シリーズ2]』)の該当箇所を読んで予習してきてください。

さらに、講義後には、わからなかった点やもっと深く知りたい点について、上記参考文献を使って復習するようにしてください。また、講義中に登場した重要な判例については、上記「教科書」(『刑法各論判例50!』)をはじめとする判例教材(「参考文献」掲載のものも含む)の該当箇所に目を通すと、より理解を深めることができます。

## 6. その他履修上の注意事項

- ・「刑法総論I・II」をすでに履修済み、または、並行して履修していることが望ましいです。
- ・講義では、毎回レジュメを配布します(LMSでも配信予定)。
- ・六法を毎回必ず(!)持参してください(小型のもので構いません)。
- ・質問や相談は、講義の前後に受け付けるほか、LMSにも専用の項目を設けます(内容の濃い質問やコメントは、翌週の授業でとりあげることがあります)。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション 刑法各論の全体像|春期の内容の概観|基本概念(保護法益など)
- 【第2回】 生命・身体に対する罪① 概説|「人」の意義①——人の始期(殺人罪|堕胎罪)|人の意義②——人の終期(臓器移植法)
- 【第3回】 生命・身体に対する罪② 自殺関与罪・同意殺人罪|殺人罪との区別
- 【第4回】 生命・身体に対する罪③ 概説|暴行罪と傷害罪|傷害致死罪
- 【第5回】 生命・身体に対する罪④ 過失致死傷罪ほか|自動車運転死傷行為処罰法(「あり運転」をめぐる諸問題を含む)
- 【第6回】 生命・身体に対する罪⑤ 生命・身体に対する危険犯(遺棄の罪)|安楽死・尊厳死|同時傷害の特例
- 【第7回】 自由に対する罪① 概説|脅迫罪と強要罪|逮捕・監禁罪
- 【第8回】 自由に対する罪② 概説|略取誘拐罪|人身売買罪
- 【第9回】 自由に対する罪③ 概説|強制わいせつ罪|強制性交等罪(近時の法改正をめぐる動向を含む)
- 【第10回】 自由に対する罪④ 住居侵入等罪
- 【第11回】 人格的法益に対する罪 概説|秘密侵害罪(信書開封罪|秘密漏示罪)|名誉毀損罪|侮辱罪(「SNSにおける誹謗中傷」をめぐる諸問題を含む)
- 【第12回】 信用・業務に対する罪 概説|信用毀損罪|業務妨害罪
- 【第13回】 国家的法益に対する罪① 概説|国家の作用に対する罪(公務の執行を妨害する罪|司法作用に対する罪|汚職の罪)
- 【第14回】 国家的法益に対する罪② 国家の存立に対する罪(内乱に関する罪|外患に関する罪|国交に関する罪)  
【LMSを利用したオンデマンド方式にて実施】
- 【第15回】 【対面での試験を実施できる場合】春期のまとめと学期末試験  
【対面での試験を実施できない場合】春期のまとめと学期末レポートの講評